

T/IT: 不寛容について

2022.12  
24, 25

茅野市民館 アトリエ  
Chino Cultural Complex



不寛容について

2022年12月

24日|土|、25日|日|

開演 15:00 | 各回開場は開演の20分前 | 上演時間約70分

T/IT: 不寛容について

人類という種の、創発性と残虐性は同根の果実であり分かち難い。  
でもだからと言って、わたしたちはそれに呑み込まれてしまうのか？

旧人類は500万年進化しなかったと言われている。そこに、現人類が現れ、他の動物の殺戮をはじめた。手も知識も「力」となり、より大きな力を生み出す創意工夫が文明を進展させていく。やがてヒトは、「全能能力」を崇拜する。共に祈りを捧げ儀式を執り行うといった連携は、深い絆となり絶大な効力を持ち、ひとつの共同体となる。同じ神を信じない者への弾圧は残虐を極めたため、他者との共存を図るために「寛容」という概念が生まれなければならなかった。共同体はしだいに国家となり、社会のどの集団よりも上位に位置する権力で、「暴力を独占」していった。ヒトは力に執着し、共同体は国家として、暴力の正当性を主張する。武器は、鈍器なものから鋭利なものへ発達し、そして弾丸となりやがて情報となった。創発性と残虐性は、同根の果実であり分かち難い。でも、だからと言って、わたしたちはそれに呑み込まれてしまうのか。

[作品概要]

この公演は、様々なデジタルデバイスを駆使したメディアアートとパフォーマンスを融合させた作品を構築する藤本隆行 / Kinsei R&D が、ドラマトゥルグに米国テンプル大学のシンヤB、作曲にDumb Typeのメンバーでもある山中透、改訂のために新たな振付家として鈴木ユキオを迎え、役者とダンサーが混在する舞台上で、身体とテクノロジーが確かな相互作用を結び、強度と解像度の高い経験を提示する作品です。人間社会がかかえる問題群を「寛容 (Tolerance) / 不寛容 (Intolerance)」という切り口から考察することに挑み、アメリカがドナルド・トランプを大統領に選んだ2017年に初演され、コロナ禍や激動する世界情勢に翻弄される現在、茅野市民館で再構築し改訂版を上演します。

不寛容について



[会場] 茅野市民館 アトリエ

[料金 | 全席自由・税込] 一般=3,500円、U-24=1,500円、ハート割=1,500円 (障がい者・療育手帳をお持ちの方、付添1名無料)  
\*公演には一部、光や音の強い演出効果、及び性的、暴力的な表現が含まれています

[チケット発売] 一般発売日 11月11日 [金]

[プレイガイド]

・茅野市民館 TEL: 0266-82-8222  
(受付 9:00-20:00、火曜休館)  
・Peatix



主催 | 一般社団法人 Kinsei R&D  
共催 | 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造  
助成 | ARTS for the future! 2  
お問い合わせ | ハイウッド  
TEL: 03-6302-0715 hiwood.info@gmail.com

茅野市民館をご利用いただくみなさまへ  
新型コロナウイルス感染拡大防止へのご理解とご協力をお願い  
<http://www.chinoshiminkan.jp/news/2020/0601.html>



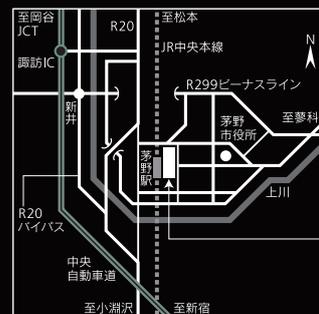
出演:  
小倉 笑  
合田有紀  
田中 遊 (正直者の会)  
辻本 佳  
長良将史  
野村香子

監督・照明: 藤本隆行 (Kinsei R&D)  
振付: 鈴木ユキオ (YUKIO SUZUKI projects)  
音楽: 山中 透  
映像: 長良将史  
ドラマトゥルグ: シンヤB

映像制御: 小西小多郎  
映像プログラミング: 白木 良  
衣装: 北村教子  
音響: 甲斐宣明 (WHITELIGHT.Ltd)  
舞台監督・大道具: 黒飛忠紀 (幸セ工務店)

制作進行: 高樹光一郎 (Hiwood)  
フライヤーデザイン: 南 琢也  
広報写真: 金 サジ

技術協力:  
カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
有限会社タマテックラボ  
パイフォニクス株式会社



茅野市民館  
Chino Cultural Complex

長野県茅野市塚原一丁目1番1号  
TEL 0266-82-8222 FAX 0266-82-8223  
受付 9:00-20:00 火曜休館 <http://www.chinoshiminkan.jp/>  
©JR中央本線・茅野駅下車、東口直結 ©中央自動車道・諏訪ICより車で約12分

